



## 年頭所感

### 新年のご挨拶

大阪大学工業会会長 鈴木 胖

新年明けましておめでとうございます。旧年中は本会の活動に多大のご協力とご支援をいただき有難うございました。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

大阪大学工業会は一昨年（令和元年）3月創立100周年を迎えました。11月30日には記念シンポジウム・祝賀会を開催いたしました。その様子は、令和2年4月号（TECHNO NET 2020 Apr. No.588）の記事「大阪大学工業会100年のあゆみ」の冒頭で、ご報告させていただきました。

昨年12月はじめには記念誌「大阪大学工業会100年のあゆみー 記念シンポジウムと記録」を作成し、当会ホームページ（Techno Net Web）に掲載いたしました。記念シンポジウムの詳細が多くのスナップ・ショットを用いて臨場感あふれる内容で紹介されています。当日の出席者から大変ご好評をいただいた内容です。ぜひご覧ください。

さて、昨年は当会も新型コロナの影響を受け、人の集まるイベントは多くが中止となりました。当会の運営に必須の総会も、6月から11月14日（土）に延期し、出席者を最小限に絞り、吹田のセンテラスで開催いたしました。議題は、令和元年事業報告および収支決算、総務省に提出する公益目的支出計画実施報告書、令和2年事業計画及び収支予算の承認、新任理事の選任について等でした。

新型コロナへの対応の過程で、当会の運営にとってホームページ Techno Net Webの果たす役割の重要性を改めて確認することが出来ました。工業会独自あるいは関係団体から共催を依頼されたイベントに関する情報は、テーマだけでなく、対面、WEBあるいは両方など開催方式が状況に合わせていろいろ工夫されています。ホームページこれらの情報を素早く知ることができ、参加者のお役に立ったと思います。会誌もホームページ（会誌）をクリックしていただくと、最新号とバックナンバー2009.Apr.NO.544以降を見ることができます。見たい会誌の号を選択し「この号を読む」をクリックすると、この号の記事のタイトル一覧が出てきます。このタイトルをさらにクリックすると記事本文が図表等も含めて出てき

ます（本文をPDF化したもの）。各ページにはこの号におけるページ番号とTECHNO NET No.（号）発刊年月が明示されています。このような機能を加えたこともあり、最近では、冊子の会誌は要らないという会員の方が増えていて、印刷や郵送の経費節減の大きく寄与していただいています。これからもホームページの活用をいろいろと考えて行きたいと思ひます。

大阪大学工業会にとって会員名簿の整備は基本的な使命と考えています。大学は、卒業あるいは修了生のトレース（その後の行く先）は基本的にしてくれません。当会は会員名簿を独立したコンピューターに格納、絶えずアップデートし、秘守義務に沿って厳重に管理しています。会誌配布に際して、会員の変更届を同封しています。変更はホームページ〈名簿登録・変更〉からも可能ですので、変更や新しい情報があればお知らせください。

以上、年頭所感にふさわしくない記事も書きましたが、ご容赦ください。あらためて本年もよろしくお願ひ申し上げます。

（電気 昭和33年卒 35年修士）





## 年頭所感

### 「コロナ世代」と呼ばせないために

大阪大学大学院  
工学研究科長・工学部長 馬場口 登

2021年新春、おめでとうございます。

大阪大学工業会の皆様には、平素より工学研究科・工学部の教育研究、人材育成に多大なるご支援ご理解を賜り心よりお礼申し上げます。

去る2020年は、本来ならば半世紀ぶりのオリンピックの祭典を成功裏に終え、新たなDecadeをお祝いする年であったはずでした。しかしながら、年初に発生した新型コロナウイルスの感染症COVID-19がこれを覆し、地球規模で猛威を振っています。あたかも人類に対する挑戦のようなこのパンデミックは、医療、経済、人の生活・行動様式などに大きな影響を与え、まさに未曾有の厄災であります。

阪大における我々の研究シーンも大きく変わりました。テレワーク、時差通勤などが一時期採用され、学会関係の全国大会、研究会はほとんどオンライン・リモート型（ZoomなどのWeb会議）となりました。そして国際会議も同様です。私のように国際会議出席の副次効果を期待する向きにはつらい状況となっています。また、これまでわざわざ東京に向かっていた会合もオンライン・リモート型となりました。これで事足るのであれば、これまでの出張は何だったのか、と思っている次第です。

我々教員よりもさらにすさまじい影響を受けたのが学生でした。昨年4月、緊急事態宣言下の新学期は、メディア授業というリアルタイム・リモート型（Web会議システムによるオンライン授業）やオンデマンド型（アップロードされた授業資料（動画、スライドなど）を任意の時間にダウンロードして受講）の講義が対面講義に代わって導入されました。学生はキャンパスに来られないため、自宅や下宿からパソコンやスマホを通して受講しました。私も、学部3年生の講義をリアルタイム・リモート型で実施しましたが、対面の実環境とは異なり学生の反応を直接受け取れないために、臨機応変に話の内容を変えることができず、一方通行の、あたかも暗闇にしゃべっているような感じに随分戸惑いました。

6月の大阪府の緊急事態宣言の解除に伴い、研究室での研究活動が再開されました。所属する大学院生ならびに4年生は3密（密閉、密集、密接）回避や、手指の消毒、マスクの着用などの制限はあるものの、登学し、研究活動を続けることができました。一方、申し訳ないことになったのは、低学年の学部生でした。とりわけ、1年生は夏頃までキャンパスに来ることができませんでした。受験勉強を乗り越え、希望に満ち溢れて大学の門をくぐる予定が、一転、自宅や下宿に留め置かれたのです。当然、新しい友達もできません。察して余りある状況でし

た。少しでもコロナ禍での苦境を緩和させようと始まった全学での「ウエルカム！阪大新入生交流会」は6月から10回開催され、のべ1000名に及ぶ1年生が参加しました。遅ればせながらも1年生の諸君にキャンパスライフの一端を味わってもらえたように思います。

メディア講義で春・夏学期を乗り切ったものの、我々の頭を悩ませたのは、試験を如何に実施するかでした。試験は学力が学生個々に定着したかを測ることが目的であるため、公平性を確保すること、およびカンニング等の不正行為を防止することが至上命題になります。ところが、学生がそれぞれの場所で受験するオンライン型の環境では、先の命題を守ることは困難であるため、試験は、従来通り、対面あるいはレポート提出による評価にならざるを得ませんでした。7月、8月の編入学試験、大学院入学試験も、感染防止策を施したうえで、対面型を基本に実施しました。10月からの秋・冬学期は、従来の対面型が中心となっています。

春・夏学期のメディア講義では、教員と学生双方の講義に対する負担が増える、コミュニケーションが取りづらい、といった短所と同時に、少人数なら対面よりも学生が議論しやすいなど、長所を見出すこともできました。大学では、田中統括理事（前工学研究科長）の指揮のもと、対面とメディア講義を組み合わせたブレンDED講義を今後模索して、活用していくという方向性が打ち出されています。

「〇〇世代」とか言うことがよくあります。「団塊世代」「ゆとり世代」「バブル世代」などあまりいい意味で使われないことが多いように感じます。昨年そして今年に大学に入った学生諸君を将来「コロナ世代」と呼ばせない工夫、努力が大学の責任であると感じています。大学の使命は、学生らが今後、社会で生きていく上の必要な知識、スキルなどを彼女／彼らに涵養させることです。コロナ禍であるからと言って、この使命を回避できるわけではありません。加えて、阪大のようなリーディング大学では、教育研究の質を下げることは許されません。このコロナパンデミックは地球規模であって、日本だけ、阪大だけが被っている災難ではありません。だからこそ、阪大の真価がいま、問われているように思います。

コロナウイルスの脅威、試練にも人類はいずれ打ち勝つと確信しています。阪大が治療法を見出し、治療薬・ワクチンを開発するなど、世界に先駆けた貢献をなすことを期待して、新年のご挨拶に代えさせていただきます。

（通信 昭和54年卒 56年前期）

## 新年を迎えて

大阪支部長 吉田敏臣

大阪大学工業会会員、大阪大学工学部卒業生同工学研究科修士ならびに関係者の皆さま、新年あけましておめでとうございます。

われらが工業会は長い伝統を有しております。幕末期、幕府の洋学教育研究機関である「開成所」に理化学校を建設する構想があったが、維新期の混乱により実現せず、明治元年大坂城西に新校舎が建設され、明治2年オランダ人化学教師ハラタマを教頭として「大阪舎密局」が開校されました。舎密(せいみ)はオランダ語 chemie に漢字をあてたものであります。大阪舎密局は日本の化学の夜明けをもたらしたといえます。大阪市中央区大手前3丁目1に跡地碑があります。このように明治における理科教育の始まりは大阪にありました。そして、1881年(明治14年)5月東京蔵前に東京工業学校が発足し、大阪にも1896年(明治29年)に玉江橋南詰に大阪工業学校が創立され、両者が東西の職工学校として、工学技術者の教育を始めました。この工業学校は大阪高等工業学校、大阪工業大学を経て大阪帝国大学工学部となりました。つまり、大阪大学工学部の創始は1896年であり、同窓会活動としては、1915年に「玉江会」の発足があり、1919年に同窓会「大阪工業倶楽部」が設立され、社団法人大阪大学工業会に繋がっています。このように工業会も創始以来百有余年となります。

皆様には、新型コロナウイルスが蔓延する中これまでとは全く違った新年をお迎えになっておられることと存じます。今後地域によってはコロナウイルスの感染が収まらず緊急事態宣言や外出自粛要請を出され、我々は引き続き行動制限や緊張を強いられながら、新しいスタイルの日常生活を営むことになると思います。このような先が見えにくい不透明な時代にあっては、いままでの価値観を見直して物事に対処しなければならぬでしょう。NEDOの岸本喜久雄氏は、コロナ禍後の期待される社会として、実空間に継ぎ目なく対応させたサイバー空間を構築し、それを活用して感染症を効果的に予防できる社会を実現するとともに、地域循環型のサプライチェーンの構築によって感染症や災害の発生時にも経済社会が停滞せずに維持できる強靱社会の構想を提案しておられます。

激変する新しい社会で人が生きていくには、構成員それぞれが「生きる力」をしっかりと身につけるとともに、他人に対する思いやりを持ってお互いに助け合うことが大切であると思います。工業会の会員、大阪大学工学部卒業生の皆さまには、新しい年およびそれ以降の将来を通して、それぞれ安全に生き抜かれるとともに、今後起こりえる多くの新しい事態に当たって、これまで培ってきた工学技術をそれぞれ駆使することによって多くの問題を解決して、技術集団の先頭に立って人類社会を守っていく役割を果たされ、それぞれご活躍されることを期待いたしております。

(醜 昭和38年卒 40年修士 43年博士)

## 新年のご挨拶

東京支部長 池田博昌

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様にはご清祥にて穏やかな新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。支部長をお引き受けして20年目に入ります。支部の運営に当たり、会員の皆様の温かいご理解・ご協力に感謝しております。

大阪大学工業会東京支部は大正9年(1920年)3月に設立され、昨年3月に創立100周年を迎えることになり、長い歴史のもと、ここまで発展してきたことは歴代役員のご努力の賜物と感謝しております。本号に「東京支部100年の歩み」を掲載しました。

昨年は、2月から新型コロナウイルスの感染が始まり、7月には第2波を迎えることとなり、大変な事態となりました。秋からは感染防止と経済の建て直しという矛盾した取り組みが始まりました。会員皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

9年前に発足した大阪銀杏技術士会(阪大技術士会)は、着実な進展をしており、会員数は増加しており、100名を超えるまでになりました。阪大卒業者の中で技術士の資格をお持ちの方、資格取得に関心を持ちの方は会員登録を頂くと幸いです。皆様のご理解をお願いします。

OKC東京支部の活動に関しましては、四大大行事と称している「総会」「ビールの会」「秋の集い」「新年会」では最近60名程度のご参加を頂いております。しかし、昨年は新型コロナウイルスの感染にともない、総会ならびに役員会は集会形式をとりやめ、メール審議の形態をとることとなりました。更に「ビールの会」「秋の集い」そして今春開催予定の「新年会」まで、すべて中止することになり、会員相互の顔合わせの機会が取れなくなりました。「秋の集い」では支部創立100周年記念事業としての講演会を企画しておりましたが、今年の「秋の集い」まで延期することに致しました。また、月例の夕方の「二日会」、昼食会としての「二水会」はいずれも3月から中止しております。二日会の日の午後には実施している「囲碁同好会」も同様に3月から中止しております。「ゴルフ同好会」については春秋と開催してきており、新年には経済学部・法学部OBとの懇親ゴルフも開催しておりますが、いずれも中止しました。「カラオケ同好会」ならびに例年秋に実施している「旅行同好会」も中止となりました。年末恒例となっている「大阪大学の集い in 東京」は中止となり、代わりに「大阪大学ホームカミングウィーク2020～大阪大学の集い@オンライン～」が催されることになりました。冬季における「スキー同好会」の活動も残念ながら中止となりました。このような寂しい状況が今年には何時平常に戻せるかが気がかりです。本誌後半の「東京支部だより」もご参照ください。

四大大行事には多数の参加を期待して参加者の誘致に努力するなど、6名の副支部長の絶大なご協力により活性化に努力しております。本年も支部活動のさらなる活性化に向けて引き続き取り組みますので、ご期待いただきたいと思います。東京支部の会員諸氏におかれましては、支部の各種催事に奮ってご参加いただきますよう、年頭にあたりお願い申し上げます。

(通信 昭和34年卒)